

山岳友の会会報

2015年10月 第18号



3026m 乗鞍岳山頂にて『ガンバって登れたネ』

もくじ

『2015上高地・乗鞍キッズキャンプ』信州大学山岳友の会 北アルプスBBN協賛)	
実施報告 小林久雄	2
スタッフの感想と要望 竹原文子 立花裕美子 奥原仁作	4
『霊峰白山と氷見を巡るたび-山と海は友だち-』	
報告1 横田耕太郎	6
報告2 萩原英一	8
第23回現地研修会 内容の《修正連絡》	9
編集後記	9

『2015 上高地・乗鞍キッズキャンプ』実施報告

バスで上高地に入り、「インフォメーション」で奥原所長から地形と行動予定のお話を聞き、班分け後に自然観察しながら明神橋へ向かう。清水川の冷水やお魚花や蝶も観察しつつ、特別天然記念物「オオイチモンジ」の産卵にも出合、明神橋たもとでお昼ご飯。信毎の取材を受けつつ河童橋に戻り記念撮影。乗鞍 ST に移動し食事や寝具準備後に温泉を愉しんだ。夕食の BBQ 後は「ナイトハイクとキャンプファイヤー」で一日目を終えました。翌朝は乗鞍大雪渓に移動し、3026m 乗鞍山頂に登山と雪渓遊びにスイカ割りを堪能、ST に戻りカレーライスを食べ竹とんぼ工作に作文コンテストをして帰りのバスに。楽しい夏休みの二日間でした、お疲れ様。
(小林 Q 記)

上高地インフォメーションで行動予定の説明



↓ 歩くとお腹もすくねえ お昼だよお～

上高地内を 明神橋へ 自然探索開始



ほら!! 「オオイチモンジの産卵だぞお!!」↑



明神橋ふもとでお弁当食べて



記念写真 ハッパリ!!



穂高をバックに記念写真です



乗鞍ではナイトハイクの説明聞いて
「サ!! 出発だ!!」



「すこし かわいなあ・・・?」



「キャンプ・ファイヤーに点火」



みんなで校歌を歌ったネ



さあ!! 乗鞍岳へ Go!!



「中学生に負けないぞお!!」



そしてついに「山頂に到着だあ!!」



雪渓では 「 スイカ割り 」



「竹とんぼ工作」と「作文コンテスト」



楽しい「キッズ・キャンプ」のひとつコマでした

【 感想と要望 】

(竹原 文子)

① 役割分担

10名大人がいましたが、それぞれの役割がはっきりせず、情報の共有がきちんと出来ていなかったように思います。メイン・サブを決めておいた方がよいと思います。キャンプ前に、関係者が集まって検討するのが一番よいのですが。

② プログラムを詰め込みすぎて、時間に追われました。

帰りの時間が決まっているので、少し余裕がほしかったです。子供全員が集まった時点で、子供たちにキャンプのルールなどきちんと話しておいてほしい。(部屋の使い方・使わない布団に上らない・ロッカーは使わない・子ども同士で悪ふざけをしない(蹴られて胸の痛みを訴えた子がいた)外に出るときは部屋の窓をしめる etc.) → プリントして配っておくべき。

③ 食材の不足(担当の竹原の責任です。すみません。)

④ BBQは、野菜も一緒に早く焼ける鉄板の方がよいと思います。

⑤ 子どもキャンプなので、飲酒はひかえめに。(子どもに何かあったときに、対応できる大人がいないと困ります)

【 感想と要望 】

(立花 裕美子)

8月5・6日の1泊2日、乗鞍ステーションでキッズキャンプが行われました。小3～6年までの26名の子どもたちが参加、友の会からは小林久雄さんはじめ10名程がお手伝いに行きました。



朝、信大から松本駅、波田支所を経て、まずは上高地入り。3つの班に分かれて明神まで、植物や山・川について学びながらハイキングです。明神ではお弁当を食べ、また上高地へ戻りました。子どもたちは1人も弱音を吐くことなく、元気に歩き切りました。

その後、乗鞍ステーションへ。宿泊する部屋の準備をして、順番にお風呂に入り、バーベキューや焼きそば、次の日のカレーの材料を切ったりしました。そして、バーベキューと焼きそばの夕食を終え、キャンプファイヤーと夜間ハイキング。初めは強がりと言っていた子も、戻ってきた時には少し大人しくなっていました。乗鞍の真っ暗な道を歩いたことは、子どもたちにとって貴重な経験となったことでしょう。

夜は部屋ごとに自由に過ごしましたが、男子の部屋でははしゃぎ過ぎた子どももあり、就寝までは大人と一緒にいなければならないと感じました。

次の日は、朝食後「乗鞍登山」に出掛けました。途中の曲がりくねった道で車酔いした子が居て、7人ほどは登山口で待機となりました。そのほかの子どもたちは、喜び勇んで駆け上がるように進む子、一步一步慎重に足を運ぶ子、様々でしたがみんな無事に山頂まで行って帰って来ることができました。

下山してからはスイカ割りをして、みんなでおいしくいただきました。そしてステーションに戻り、昼食は昨日煮込んであったカレーライス。

午後は松田講師による竹トンボ作りと、思い出の絵日記描きです。竹トンボは思い思いに色を塗り、自分だけの作品が完成しました。絵日記には1泊2日の中で、一人ひとり一番印象に残ったことが描いてあり個性溢れる内容でした。アルバム(絵日記集)が作られるそうなので機会があったら是非ご覧ください。



今回スタッフとして3回目の参加でしたが、個人的には5日程前に行われた打ち合わせ会に参加できず、当日「出たとこ勝負」の印象が強いキャンプとなってしまったことが残念です。また、全体の指示、各プログラムでの指示が統一されていないので、やや混乱する場面もあったので、来年への課題と考えます。

とは言え、スタッフの皆様、大変お世話になりました。お疲れさまでした。

【 感想と要望 】

(奥原 仁作)

1. 幸い26名の参加をみたが、計画を早めにまとめ、「広報まつもと」7月号に間に合うようにしたい。信毎(新聞掲載)は取り上げていただきました。

《6月3日に市の広報にメール依頼しましたが、紙面の都合なのか掲載されませんでした。掲載希望が多い月なので対応に気配りが必要か。》

2. 上高地を含めた工程は良かったと思う。

3. 夕食について、肉を焼く場所(ガレージ)と食べる場所(食堂)が離れており、バラバラ感があった。天気にもよるが、夕食については屋外で一体化に来ればと思う。

4. 食材の量が少なかった。今回子供たちが高学年男子が



多かった。

この辺りを勘案して調達する必要があった。スタッフの食事や副食物や飲み物ももう少し多めに用意したほうがいいと思う。

5. 乗鞍ステーションはキャンプ・ファイヤーが出来て良いが、余興を考えておくべき、「マイムマイム」などのテープ(CD)を準備しておくともっと良い。
6. 子供たちは部屋で結構好き放題にしており、ある面それも良しとするが、全体を通して『ケガ』に対する気遣いはしっかりしておくべきだ。
7. 調理について、主に女性スタッフ3名で担当。彼女たちが居ないとちょっと大変かも？スタッフそれぞれの役割をはたしていただいているが。
8. スタッフでの「反省会」はやったほうがよいと思う。(当日夕など実施直後に)他のスタッフの皆さんからの意見や反省点をいただいて来年に繋げるようにしましょう。

第 21 回現地研修会『霊峰白山と氷見を巡る旅—山と海は友だち—』に参加して



♪有難や有難や 有難や有難や
 天气に構わず 酒盛り騒ぎ
 山で里でとビール呑む 酒が足らなきゃ 大阪屋
 酔って騒いで「友の会」♪

「一体、なんの研修会だったのだろう？」

2泊3日の研修会を終え、家に戻った8月30日。ふだんの夕食を食べながら、3日間を振り返ると、楽しかった思い出だけがよみがえってきます。「いいじゃないか、

楽しければ」。山の先輩や仲間から、酒を酌み交わしながら聞く話もまた研修。山の恵みは雨とともに、川となって海へと流れ下り、海の恵みとなる。そして再び水となって山の恵みを育てます。「山と海は友達」。そうだ。これこそが今回の研修の目的だったのだと・・・。

さて、今回の目的地は北陸の霊峰・白山。周囲の山から雪が消える季節にも、なお白く輝く姿を望むことができるそうですが、とても奥まった所にある山です。行きは白山白川郷ホワイトロード(旧白山スーパー林道)を經由して、別当出合の登山口に着いたのは、予定より1時間遅れての11時。「みんな無事に室堂に着けるのか」。そんな不安をよそに準備運動をしてから、一同各々のペースで砂防新道を登り始めました。



すでに秋の雰囲気漂う登山道。最盛期は過ぎても、花の百名山に恥じない花達が出迎えてくれました。天気は下り坂でしたが、何とか持ち15時に室堂に3人で一番乗り、無事到着

を祝って祝杯。

その後、16時くらいまでに次々と到着しました。遅れてくる人を迎えに行った小林Qさん、ご苦労さま。おかげで全員無事に夕食の席につけました。

翌朝は霧と雨。ご来光は望めそうにもありません。あきらめて再び眠りにつきます。

朝食後、相変わらずの天気ですが、ここまで来て頂上を踏まずに下れぬと、一縷の



望みをかけて数人が頂上を目指しました。するとどうでしょう。霧の切れ間から室堂と弥陀ヶ原が姿を現しました。ご褒美はあるものです。

8時を少し回った頃、室堂を出発。すでに観光新道経由で下山を開始した人もいます。眺望もよくありませんし、雨もまだぱらついていましたので、エコーライン経由、砂防新道で下山。10時半を少し回った頃に別当出合に帰ってきました。そして11時半前には全員揃って祝杯。その様子が一番最初の写真です。



お昼はちょっとお洒落な手洗いのあるもつ煮込みうどんの瀬女峠茶屋。

さあ、後は氷見の海鮮目指して、宴会のみ？ 昼食はまだですが、気にせず飲み食いするメンバーです。

和倉温泉による話もありましたが、時間も遅くなりますから、今夜の宿、温泉民宿「叶」を目指しました。途中、トイレ兼アルコール買い出しを済ませて、15時40分頃宿に到着。ひとつ風呂浴びてから、夕食まで、それぞれの時間を過ごします。阿尾漁港の近く、雨も上がって湾は穏やかでしたが、残念ながら立山連峰を拝むことはできません。



そしていよいよ始まった大宴会。

テーブルには海の幸が船盛一杯並びます。次から次に並ぶご馳走。そして日本酒。全部のせたらきりがありません。そして、最後に出てきたシマダイは何皿も翌日の”つまみ”となっていました。旬のカマスは翌朝、焼き魚となって出てきました。

翌朝は本降りの雨。朝日どころか散歩も叶わず、朝食後宿を後にして、氷見漁港場外市場 ひみ番屋街へ。さあ、新鮮なつまみが手に入れば、後は飲むだけです。松本帰着後、家まで車なので飲めないのが残念。



地元のスーパー大阪屋ショップでアルコールを補給して



帰路に着きました。予定ではお昼過ぎに松本帰着予定ですが、どうみても途中でお昼を食べなければなりません。少しでも早くということで、当初予定の神岡経由ではなく、高山経由に変更・・・と、せっかくなので美味しい飛騨牛という提案があり、有名な『丸明』へ。真面目にランチを済ませたメンバーを尻目に、生ビールで宴会した

メンバーは一体どの人たちでしょうね？

なにとはともあれ、たくさんのお土産を手に、午後おそくに松本へと無事、帰ってきたのでした。

楽しかった3日間、お世話になりありがとうございました。

横田 耕太郎

『霊峰白山と氷見を巡る旅』に参加して

白山より無事下山し荷物の整理を兼ねてバスの脇で着替えをしているとバスの中から“乾杯”という声が聞こえてきた。着替えの最中に何度も繰り返される“乾杯”の声…バスの中でいったい何が起きているのか疑問に思いつつ荷物をまとめバスの中へ…そこでまず手渡されたのがビール、そして“乾杯”の発声をするに…何度となく繰り返されてきた“乾杯”の理由がようやくわかった…。



8月28日に波田支所よりバスに乗ってから何回の“乾杯”をしたのだろうか…。

この日の長野県の天気予報は雨、この“乾杯”のおかげかどうかは不明ではあるがこの日一日、雨にあうことはなかった。また、途中の白山白川郷ホワイトロード(旧白山スーパー林道)からは青空と山の緑と残雪の白が美しいコントラストをなす白山の全容が見えた。



11時半頃、白山登山の起点となる別当出合にバスは到着した。そして駐車場近くにある休憩舎の前で軽くストレッチをしてからいよいよ登山開始、それぞれの人各自に見合ったペースで目的地である白山室堂小屋を目指す。私にとって初めて登る白山、一步一步自分に合ったペースで歩き続けた。途中、中飯場で休憩をしてさらに進むと甚之助避難小屋に到着。ここからは甚之助谷の崩落地が見え白山にもこのような荒々しい一面があることを知った。

小休止して再び歩き出す、この辺りから高山植物の数も増え視界も開けてきた。そして十二曲がりに登りつめると黒ボコ岩のある広場に出た。黒ボコ岩は昔白山が噴火した際、火砕流によって運ばれてきた火山弾とも言われこの周辺には大小多くの岩があった。黒ボコ岩の先は台地状になっており木道が続いていた。やがて木道が終わると再び山道となり、ここを登りきると白山の頂上が見え、そしてまもなく私たちは白山室堂小屋に到着、誰ともなく広場のテーブルにリュックからビールを取り出しビールを飲みながらメンバーの到着を待った。到着する人が増えると共に人の輪が広がり、テーブルの上ではビールやワインなどのお酒の輪が広がっていった。そしてこの会は夕食後、小屋の中で消灯の時間まで続いた…。



二日目の朝食後、濃霧と小雨の降る中、白山の山頂を目指す。頂上に着く頃、眺望までは期待していなかったが霧が一瞬晴れ白山室堂小屋とその周辺の景色を霧越しに見ることができた。しかし、これ以上霧が晴れそうもないため、小屋まで引き返し、そこからエコーライン経由で下山することとした。晴れていれば見えるはずのすばらしい景色も今日は霧の中、こんな日は足ものと景色を楽しむに限る。岩に生えるコケは雨に濡れ瑞々しさを増す一方、最盛期を





過ぎた花々は過ぎゆく夏を悲しむかのように花びらを雨に濡らしていた。砂防新道との合流点を過ぎた辺りから頂上を目指す登山者が目立つようになってきた。週末の予報が良くないにも関わらず登ってくる多くの人…行き違いに苦勞しながらようやく登山口である駐車場に到着。その後、下山の祝杯をあげながらバスで本日の宿泊先である氷見を目指す。この夜私たちは海辺の民宿で海の幸を堪能した。

三日目の朝、民宿を出たあと氷見番屋街へ立ち寄り、私たちを乗せたバスは東海北陸自動車道を南下した。バスの中ではサングラスをかけた時の人相品評会を行い、それぞれの人サングラスをかけるたびに笑いが生まれた。こうしている間にバスは高山へ到着しここでは飛騨牛を堪能した。その後、安房トンネルを經由し最後の休憩を風穴の里でとりバスは波田支所に到着、こうして今回の研修旅行は無事終了した。

昨年12月に入会して今回で2度目の現地研修会でしたが、長時間のバス移動が伴う現地研修会は今回が初めてでした。皆さんのお心配りもあり大変楽しく居心地(酔い心地?)のいい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

萩原 英一

◎第23回現地研修会 10/17-18 内容の《修正連絡》

10月17日18日【現地研修会】内容の変更です。
当初のキノコ狩りを中止して下記の内容に変更します。

■秋の味覚を堪能するかい? (秋刀魚とキノコ鍋の宵)

集合 上高地帝国ホテル 13時00分 特別ランチ(デザート付)¥3000円

ランチ後に各自登山道のゴミ拾いしつつ明神へ

信大上高地行へ 16時 宴の準備

翌朝 早朝講義 『上高地の樹木分布』 講師:梶澤義継

治山道を歩きつつ講義後に朝食。 後解散

※当初の案内より変更が多く、ご迷惑をおかけしますがご理解ください。
会費は4000円 ラunchは希望者現地にて徴収します。

編集後記

7月8月は何時に無い猛暑が続きましたが、気づけば台風15号16号で季節が移り、霊峰白山も天候に気を惑わされながらも雨の合間に無事。

今年度も折り返しになっていますネ。表紙は「キッズ・キャンプ」北アBBNの協賛により作成の「友の会の旗」も写っています。季節は秋本番に移り残す研修会もわずかですが「上高地大人のキャンプ」も楽しみましょう。 Q

信州大学山岳友の会会報 第18号

発行日: 2015年10月1日

発行: 信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

FAX: 0263-37-2438

E-mail: suims@shinshu-u.ac.jp